

19 広報関係

(1) プレスリリース（平成27年度）

組織名 年月日	プレスリリースの内容
林木育種 センター H27. 4. 15	タイトル 長野県指定天然記念物大町市美麻の「大塩のイヌザクラ」の後継樹の里帰り 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 長野県指定天然記念物に指定されている長野県大町市の静の桜公園にある「大塩のイヌザクラ」の後継樹が里帰りします。
林木育種 センター H27. 4. 15	タイトル 「会津五桜」の1つ、福島県会津坂下町指定天然記念物「杉の糸桜」の後継樹の里帰り 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 会津坂下町指定天然記念物に指定されている福島県会津坂下町の「杉の糸桜」（エドヒガン）の後継樹が里帰りします。
林木育種 センター H27. 5. 25	タイトル カラマツ採種園管理のための技術講習会の開催 中部森林管理局からの要請を受けて開催する技術講習会についてプレスリリースした。 （要旨） 中部森林管理局ではカラマツ種子の安定的な供給に向けて管内の採種園を再整備しているところで、それを支援するため、国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターではカラマツ採種園管理に係る技術講習会を開催します。
林木育種 センター H27. 5. 25	タイトル ケニアからの研修員を受け入れ JICAの技術協力プロジェクトでケニアから研修員の受け入れについてプレスリリースした。 （要旨） 独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する技術協力プロジェクト「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」において、郷土樹種メリア（センダン科）などを対象に乾燥に強い品種の開発、優良な種苗の普及などに取り組んでいます。これまで専門家の派遣や研修員の受け入れを行っており、今年は林木育種センターで計6名の研修員を受入れます。
林木育種 センター H27. 6. 17	タイトル 成長に優れたスギ特定母樹の性能評価試験を開始 福島県内で初めてとなるスギ特定母樹の性能評価試験地の設定についてプレスリリースした。 （要旨） 国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター、福島県林業研究センター、福島県農林種苗農業協同組合、福島県森林管理署の4者で成長の優れた特定母樹の普及を推進するための共同試験に取り組んでおり、福島県内で初めてとなるスギ特定母樹の性能評価試験地設定のため苗木の植栽を行います。
林木育種 センター H27. 8. 12	タイトル 「林木遺伝子銀行110番」のご案内 後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」についてプレスリリースした。 （要旨） 国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センターでは、各地の天然記念物や巨樹・名木等について、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。後継樹が必要となった場合は林木育種センター、または最寄りの育種場にご連絡ください。
産業技術 総合研 究所・森 林総合 研究 所・科学 技術振興 機構 H28. 1. 27	タイトル イネの遺伝子を使ってポプラの木質を増強 イネの遺伝子を使ってポプラの木質を大幅に強化する技術を開発したことについてプレスリリースした。 （要旨） 国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人森林総合研究所森林バイオ研究センターと共同で、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業（先端的低炭素化技術開発：ALCA）の研究開発課題の一環として技術開発が行われ、イネ由来の木質生産を制御する遺伝子をポプラに導入して木質を増強する技術を開発しました。
東北 育種場 H27. 10. 6	タイトル 復興の願いを込めよう、松原に ～海岸防災林再生に向けた抵抗性クロマツの供給～ 東北地方海岸防災林の再生に向けた農食研事業に関する公開セミナー開催についてプレスリリースした。 （要旨） 東北地方の海岸防災林を再生するため、平成25年度から関係機関とともに農食研事業「東北地方海岸林再生に向けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上」に取り組んでおり、最終年度である27年度においてこれまでの研究成果についてセミナーを開催し広くPRした。

組織名 年月日	プレスリリースの内容
東 北 育種場 H28. 3. 4	タイトル 東日本大震災で壊滅的な被害を受けた東北地方太平洋側地域の海岸防災林の再生に貢献しますーマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の安定供給システムの構築ー 東北地方海岸防災林の再生に向けた農食研事業の研究成果及びマニュアル化についてプレスリリースした。 (要旨) 東北地方の海岸防災林を再生するため、平成25年度から関係機関とともに農食研事業「東北地方海岸林再生に向けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上」に取り組んでおり、最終年度である27年度においてこれまでの研究成果の公表と研究成果のマニュアル化についてPRした。
東 北 育種場 H28. 3. 28	タイトル 松くい虫に強いマツを開発しました 今年度開発したマツノザイセンチュウ抵抗性品種についてプレスリリースした。 (要旨) 東北育種場では、関係機関と連携してしたマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ4品種とクロマツ2品種を開発しました。
東 北 育種場 H28. 3. 28	タイトル 幹重量の大きいカラマツを開発しました 今年度開発した幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ品種についてプレスリリースした。 (要旨) 東北育種場では、幹重量（二酸化炭素吸収・固定能力）の大きいカラマツ6品種を開発しました。
東 北 育種場 H28. 3. 28	タイトル 花粉の少ないスギを開発しました 今年度開発した少花粉スギ品種についてプレスリリースした。 (要旨) 東北育種場では、関係機関と連携してした少花粉スギ2品種を開発しました。
東 北 育種場 H28. 3. 28	タイトル 雪曲がりが少なく成長の優れたスギから8系統が農林水産大臣から普及すべき樹木としての指定を受けましたースギ雪害抵抗性品種の第2個体から特定母樹に8系統が指定ー 今年度、農林水産大臣から指定を受けた特定母樹についてプレスリリースした。 (要旨) 国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場では、雪害抵抗性品種同土をかけあわせた第2世代個体から成長が優れたものを農林水産省に申請し、農林水産大臣から特定母樹として指定を受けました。特定母樹はこれまでに全国で137系統が開発されていますが、雪害抵抗性品種の第2世代個体から指定されるのは初めてとなります。
関 西 育種場 H28. 3. 4	タイトル：「平野神社の魁桜・寝覚め、夕日、撫子」の後継樹苗木が里帰り 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 平野神社の祭神は臣籍降下した氏族の氏神であったことから、各公家伝来の珍しい桜が奉納され、現在まで育成・継承されてきた品種が多く残されている。それらの貴重な品種類は野生には存在せず、基本的にはつぎ木でしか育成することができない状況にあることから、子孫を永く後世に残したいとの要望があり、当育種場に後継樹苗木の育成について要請があった。 要請を受けた4品種の桜が貴重な樹木であることから、平成27年2月に親木から枝（穂木）を採取し、後継樹育成のためつぎ木増殖を試みてきた。 その後、増殖に成功し野外に植栽しても生育できる見込みがついたので、里帰りさせることとした。
関 西 育種場 H28. 3. 22	タイトル：第19回吾北・カタシの花祭り2016の行事で「シャクジョウカタシ（藪椿）」の後継樹苗木を里帰り 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 高知県指定天然記念物のこの木は、樹齢400～700年、幹周3.2m、樹高13m、単体での幹の大きさは日本一とも言われており、樹形が僧侶や山伏の持つ「錫杖」に似ているところから「シャクジョウカタシ」と呼ばれ、多くの人々に親しまれ見守られている。 しかし、近年、大枝が枯れ樹勢が衰えてきている中、子孫を永く後世に残したいと後継樹の育成についての町教育長より要請があり、「シャクジョウカタシ」が貴重な樹木であるため、つぎ木・さし木増殖用に枝を採取し、後継樹育成に取り組んできた。 その後、つぎ木増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがついたことから、いの町に里帰りさせることとした。
九 州 育種場 H27. 11. 11	タイトル 成長が早い樹木の早期普及に向けた取組ー鹿児島県で「九州地区特定母樹等普及促進会議」を開催ー 鹿児島県で「九州地区特定母樹等普及促進会議」を開催することをプレスリリースした。 (要旨) 平成27年11月18日、鹿児島県森林技術総合センターにおいて、樹苗生産者、九州各県、九州森林管理局、森林整備センター、九州育種場の関係者が集まり九州地区で初めて「九州地区特定母樹等普及促進会議」を開催する。 会議では、①特定母樹等の開発状況について、②特定母樹の普及について、③特定母樹の増殖について情報提供を行うとともに、植栽から3年経過している特定母樹等の植栽試験地（鹿児島県と九州育種場の共同試験地）において、実際の生育状況を視察することとしている。

(2) テレビ・ラジオ等（平成27年度）

組織名	マスコミ名等 年 月	報 道 の 概 要
育種センター	テレビユー福島 平成27年6月19日	○ スイッチ 成長が優れ、花粉生産量が一般的なスギの概ね半分以下という特性を有しているエリートツリー（特定母樹）についての説明があり、福島県田村市にエリートツリーの試験地を設定している様子が紹介された。
	ケーブルテレビJWAY 平成27年10月28～29日	○ デイリーひたち 10月24日に林木育種センターで開催された「親木の集い」について、参加者のインタビューとともにその様子が紹介された。
東北育種場	なし	
関西育種場	高知さんさんテレビ 平成28年2月9日	○ SUNSUNみんなのニュース 樹勢が衰えてきていた高知市第6小学校にあるアカマツをつぎ木増殖し、里帰りした様子が紹介された。
	NHK高知放送局 平成28年2月9日	○ こうち情報いちばん、ニュース845こうち 樹勢が衰えてきていた高知市第6小学校にあるアカマツをつぎ木増殖し、里帰りした様子が紹介された。
	NHK鳥取放送局 平成28年3月3日	○ いちおしNEWSとっとり 鳥取森林管理署が大山並木松を次世代に引き継ぐための体験学習行事を開催し、行事に協力出展した関西育種場のつぎ木指導が紹介された。
九州育種場	KKT熊本県民テレビ 平成27年8月28日	○ テレビタミン 熊本市の大江小学校で、台風で折れてしまった樹齢100年以上のエノキの大木を学校のシンボルとしてもう一度再生させるための動きが始まった。 森林総合研究所の職員がエノキの枝を採取しさし木をして、同じ遺伝子を持つ新しい苗木を育てている。うまくいけば3年から4年ほどで「里帰り」できる。
	RKK熊本放送 平成27年9月1日	○ RKKNEWS「JUST」 大江小学校では台風15号で倒れたエノキの命をなんとか繋ぎたいと考え、台風から3日後、教育委員会を通して依頼を受けた国の森林総合研究所が、倒れた木から状態のよい枝をおよそ60本持ち帰って育てている。無事に根が張るかどうかは今の時点では分からない。「大江小学校に戻るの約3～4年かかると思うのでそれまでは大切に管理したい。」
	TKUテレビ熊本 平成27年9月28日	○ みんなのニュース 台風15号で折れた、大江小学校のシンボル「おおえのき」の再生に向けて小学校では様々な取り組みを進めている。 熊本市教育委員会は、大木や名木の後継樹を残す事業を行っている森林総合研究所に「おおえのき」の再生を依頼、健康な枝をさし木にして、枝から根が出ることを試みている。「根が出るのは今から4～5ヶ月先になるので枯れないように管理していきたい。」

(3) 新聞報道等（平成27年度）

組織名	マスコミ紙名等 年 月	報 道 の 概 要
育種センター	福島民友新聞 平成27年4月22日	○「杉の糸桜」帰郷へ 坂下の葉王寺25日記念植樹 林木育種センターで林木遺伝子銀行110番によって増殖した、福島県会津坂下町指定天然記念物「杉の糸桜」の後継樹が4月25日に会津坂下町へ里帰りする。
	信濃毎日新聞 平成27年4月22日	○高原調 長野県大町市美麻の「静の桜公園」に立つ樹齢800年以上とされる長野県指定天然記念物「大塩のイヌザクラ」の枝から挿し木で育てた苗木が21日、10年がかりで林木育種センターから親木の隣に里帰りした。
	読売新聞 平成27年5月9日	○「かしまの一本松」発芽 福島県南相馬市鹿島区の「かしまの一本松」から採取した種子が発芽した。根元に落ちていた古い松ぼっくりから取り出した種子約200粒を林木育種センターの温室で育てたところ3粒が発芽し、新芽は3cm程に育っている。
	信濃毎日新聞 平成27年6月3日	○カラマツの結実促す技術講習会 6月2日、長野県北佐久郡御代田町の国有林内にある「清万採種園」で、カラマツ種子の安定的な確保を目指す目的で「環状剥皮」という花芽が付くよう促す管理技術を林木育種センターが講師となり学んだ。
	読売新聞 平成27年6月4日	○カラマツを手入れ 浅間山国有林の清万採種園で2日カラマツから優良種子を採るための講習会が行われ、森林管理署員ら約40人が参加し、森林総合研究所の職員が講師を務めた。
	福島民友新聞 平成27年6月18日	○優良スギ試験育樹へ 林木育種センターと共に福島県林業研究センター、福島県農林種苗農業協同組合、福島県森林管理署が協力する共同研究で、明日19日、福島県田村市の国有林で一般的なスギと比べて木材の体積の成長量が1.5倍以上と優れ、花粉生産量が半分以下という特性を持っている「特定母樹」などを植栽する。
	林政ニュース 平成27年7月22日	○新規造林樹種・コウヨウザンの本格普及へ 森林総合研究所林木育種センターと鹿児島大学、広島県立総合技術研究所、(株)中国木材が、国の事業を活用して、針葉樹の新たな造林樹種としてコウヨウザンを普及するための研究開発事業がスタートする。
	福島民報 平成27年7月30日	○「一本松」2世誕生 鹿島復興の象徴 市民らの心のよりどころに 地元保存会が震災を乗り越えた生命力を後世に引き継ぐと取り組み、東日本大震災の津波に耐え、復興のシンボルとなっている福島県南相馬市鹿島区の「かしまの一本松」の二世が林木育種センターで誕生した。
	林政ニュース 平成27年8月5日	○ケニア森林公社のムゴ総裁らが来日し視察 JICAプロジェクトの一環として、ケニア森林公社のムゴ総裁とケニア森林研究所のキゴモ次長らが来日し、7月7～8日に森林総合研究所と林木育種センターを訪れた。
	林政ニュース 平成27年8月5日	○人工造林は基本的に特定母樹で、すでに134種を指定 間伐促進特措法が改正され、「今後の人工造林は基本的に特定母樹により行う」という方針が打ち出されたことによりが高速育種運営会議が特定母樹等普及促進会議に衣替えされ、7月28日に関東育種基本区にて開催された。
	林政ニュース 平成27年10月21日	○11.6「スギにおける分子育種の幕開け」 森林総合研究所林木育種センターは、11月6日にシンポジウム「スギにおける分子育種の幕開け」を開催し、4年かけて開発したスギの品種改良に必要な期間を大幅に短縮する技術について発表する。
	林政ニュース 平成27年12月2日	○遺伝子利用で高速育種、新品種開発期間を3分の1に短縮 成長や材質などに関係する遺伝子を特定・利用することで、新品種開発期間をこれまでの3分の1に短縮するプロジェクトが進められており、この成果発表会として11月6日「スギにおける分子育種の幕開け」と題しシンポジウムが行われた。
	林政ニュース 平成28年1月27日	○2・5「平成27年度林木育種成果発表会」 森林総合研究所林木育種センターは2月5日に「最先端へのアクション！進化する林木育種！」をテーマに「平成27年度林木育種成果発表会」を開催する。
	中国新聞 平成28年2月4日	○コウヨウザン普及へ研究 スギより成長が早く、ヒノキ並みの強度があるといわれる針葉樹コウヨウザンの普及に向けて進めている共同研究について2月5日に広島県林業技術センターの成果発表会で報告するとともに、林木育種センター生方遺伝資源部長の講演「森林資源を未来へつなぐ林木育種」も行われる。
	林政ニュース 平成28年2月24日	○林木育種成果発表会で今後の方向性を解説 林木育種成果発表会が2月5日に開催され、スギゲノム情報を活用した高速育種技術や早生樹種コウヨウザンの品種改良、薬用系機能性樹木の生産効率化などの成果は報告された。
	日経ヴェリタス 平成28年2月28日	○光で分解 ワクチンで「完治」も近い？ 花粉症対策として単に花粉を避けるだけではなく、分解して無害化したり、症状の原因になる体の免疫システムに働きかけ完全に治したりする技術も発達してきた。その中の1つとして、森林総合研究所では遺伝子組み換え技術で花粉を飛ばさないようなスギを生み出した。
	茨城新聞 平成28年3月2日	○梅、85品種が見頃 森林総合研究所林木育種センターで、遺伝資源保存のために植栽している梅の木85品種88本の花が見頃を迎えています。
	マイナビニュース 平成28年3月22日	○花粉症はなくなるのか ースギ伐採の現状から 林野庁では「3本の矢」ならぬ「3本の斧」を掲げており、このうちの1つとして「花粉対策苗木（少花粉スギなど）への植え替えを推奨」している。森林総合研究所林木育種センターには、多くの都府県から少花粉スギの原種苗木を配布してほしいという要望が寄せられている。
北海道育種場	林政ニュース 平成27年9月9日	○特定母樹の普及促進へ、北海道育種場が指導林家に説明 北海道指導林家連絡協議会からの要請に応じて、8月25日に道内の特定母樹第1号である「中標凧5号」が「クリーンラーチ」の種子生産の要となっていることや、これから苗木の供給量を増やしていく方針であることを説明した。
東北育種場	秋田さきがけ 平成27年4月9日	○大屋の梅の象徴 次世代に残そう 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行う「江津の庭梅」について紹介された。

組織名	マスコミ紙名等 年 月	報 道 の 概 要
東北育種場	毎日新聞 平成27年4月9日	○江津の庭梅帰郷へ 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行う「江津の庭梅」について紹介された。
	河北新報 平成27年4月11日	○江津の庭梅帰郷へ 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行った「江津の庭梅」について紹介された。
	秋田さがけ 平成27年4月11日	○江津の庭梅、丈夫に育って 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行った「江津の庭梅」について紹介された。
	朝日新聞 平成27年4月11日	○お帰り「江津の庭梅」 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行った「江津の庭梅」について紹介された。
	読売新聞 平成27年4月11日	○伝統の梅の木 次代へ 林木遺伝子銀行110番において4月10日に里帰りを行った「江津の庭梅」について紹介された。
	デーリー東北 平成27年5月30日	○巨木の遺伝子 後世へ 林木遺伝子銀行110番において5月29日に里帰りを行った「柏葉公園のモミ」について紹介された。
	東奥日報 平成27年5月30日	○分身のモミ 大きく育て 林木遺伝子銀行110番において5月29日に里帰りを行った「柏葉公園のモミ」について紹介された。
	岩手日報 1月1日	○高田松原 あの日から未来へ 東北育種場で育成中のつぎ木4兄弟の現況について掲載された。
	岩手林業新報 3月8日	○クロマツ苗木の安定供給システム構築 農食研事業「東北地方海岸防災林再生に向けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上」の研究成果及び成果のマニュアル化について掲載された。
	岩手日日新聞 3月11日	○奇跡の一本松の後継樹「つぎ木4兄弟」の写真が掲載された。 震災から5年後の3月11日の新聞の一面に、震災年に産まれた子どもの写真とともに4兄弟の写真が掲載された。
関西育種場	河北新報 3月31日	○「ツギキ4兄弟」すくすく 奇跡の一本松から採取した枝でつぎ木増殖されたつぎ木4兄弟の現在の様子の写真が掲載された。
	山陽新聞 平成27年8月4日	○勝央 木工クラフトや迷路 一般公開「森林とのふれあい2015」の開催について、関西育種場及び各コーナーが紹介された。
	津山朝日 平成27年8月5日	○関西育種場 木工や迷路…樹木に親しむ 一般公開「森林とのふれあい2015」の開催について、関西育種場及び各コーナーが紹介された。
	読売新聞（鳥取版） 平成28年3月4日	○大山並木松次世代に 児童17人が接ぎ木体験 鳥取森林管理署が大山並木松を次世代に引き継ぐための体験学習行事を開催し、行事に協力出展した関西育種場のつぎ木指導が紹介された。
	日本海新聞 平成28年3月4日	○大山小児童ら「大山並木松」を後世に 2代目種まき・接ぎ木 鳥取森林管理署が大山並木松を次世代に引き継ぐための体験学習行事を開催し、行事に協力出展した関西育種場のつぎ木指導が紹介された。
	京都新聞 平成28年3月24日	○貴重な桜の4品種、幼木で「帰郷」 京都・平野神社 樹勢が衰えてきていた京都市北区（平野神社）にあるサクラをつぎ木増殖し、里帰りした様子が紹介された。
九州育種場	朝日新聞（高知版） 平成28年3月29日	○弱ったヤブツバキ、クローン苗木で里帰り いの町 樹勢が衰えてきていた高知県のいの町にあるヤブツバキをつぎ木増殖し、里帰りした様子が紹介された。
	毎日新聞 平成27年8月29日	○台風15号で倒れた樹齢120年の大エノキ 残った芽や枝で再生目指す 熊本・大江小のシンボルツリー 大江小学校のシンボルツリーの大エノキが、台風15号で根元から倒れる被害に遭った。残った枝を挿し木して大エノキを再生することを九州育種場に依頼した。
	熊本日日新聞 平成27年9月4日	○台風被害の木 守りつなぐ 大江小おおえのき 大江小の児童と地域住民らが、台風15号で倒れたシンボルツリー「おおえのき」の活用方法を話し合った。合志市にある森林研究機関で挿し木も試されている。
	朝日新聞 平成27年9月5日	○大木無残 再生へ始動 大江小の「おおえのき」台風被害で児童ら 学校を見守ってきた巨木を形に残し、未来につないでいこうと地域を巻き込んだプロジェクトが始まった。「森林総合研究所」に協力を求め、枝からつぎ木も試みることにしている。
	読売新聞 平成27年9月27日	○「おおえのき」再生プロジェクト 児童・住民 新芽生育へ団結 「おおえのき」を再生しようと、児童や卒業生、住民たちが動き始めた。天然記念物や名木などの後継樹を残す活動をしている森林総合研究所林木育種センターは、おおえのきの枝を挿し木する手法で再生に取り組み、順調にいけば数年後には、学校に再び植樹できるといふ。
九州育種場	ザイモク新聞 平成27年11月下旬	○「特定母樹等普及促進会議」鹿児島 成長が早い樹木の早期普及へ 九州育種場が主催する九州では初めてとなる「九州地区特定母樹等普及促進会議」が鹿児島県森林技術総合センターに関係行政・研究機関、種苗生産者等約50人が出席して開かれた。

組織名	マスコミ紙名等 年 月	報 道 の 概 要
九州育種場	日刊木材新聞 平成27年12月5日	○「特定母樹」普及へ 九州合同会議を初開催 早期の増殖へ取り組み強化 生長が早いなど優れた樹木として農林水産大臣が指定する「特定母樹」の早期普及に向け、九州の関係行政、研究機関、樹苗生産者などが一堂に会し情報共有などを行う「九州地区特定母樹等普及促進会議」が初めて開かれた。
	林政ニュース 平成28年1月13日	○特定母樹の早期普及に向け九州育種場が関係者会議を開く 九州育種場は、成長等に優れた「特定母樹」の早期普及を図るため、昨年11月18日に鹿児島県始良市の鹿児島県森林技術総合センターで「九州地区特定母樹等普及促進会議」を開催した。
	西日本新聞 平成28年3月2日	○高千穂ご神木永遠に 樹齢800年スギから後継苗木 高千穂神社のご神木の後継苗木が1日、同神社に届き、植樹された。神社の依頼で2014年春に枝を採取し、宮崎県林業技術センターや九州育種場などが挿し木に取り組みと約30株の苗木が育ったという。
	読売新聞 平成28年3月2日	○「力与えるご神木に」高千穂神社 後継の苗木植樹 樹齢800年とされる高千穂神社のご神木の杉の枝葉から育てられた苗木が1日、神社の敷地内に植樹された。神社は2014年5月枝葉を採取し、後継のご神木となる苗木の育成を宮崎県林業技術センター、九州育種場、農林業栗野さんに依頼し、挿し木や接ぎ木で培養され苗木30本が育った。
	朝日新聞 平成28年3月2日	○「800歳、ご神木に後継ぎ 高千穂神社 直系の苗木業者ら育てる 推定で樹齢800年とされる高千穂神社のご神木から育てられた苗が1日、神社に里帰りした。林業家栗谷さんのほか、宮崎県林業技術センターと九州育種場の3者がご神木からとった穂木を挿し木などで育てた。
	夕刊デیلیー 平成28年3月2日	○高千穂神社 ご神木 穂から苗を育成 後藤宮司「大切に育てたい」 樹齢800年以上といわれるご神木のスギから枝先の穂を採取して育てられた苗木30本が1日、高千穂神社に「里帰り」、し、このうち1本が神社の敷地内に植栽された。一昨年5月、ご神木から若い枝先の穂を採取する作業が行われ、宮崎県林業技術センターや九州育種場、栗屋さんが接ぎ木、挿し木で育ててきた。
	宮崎日日新聞 平成28年3月5日	○鎮守の森残したい 高千穂神社 ご神木後継苗を植栽 高千穂町・高千穂神社は1日、境内にある樹齢約800年のご神木杉を親木とする、後継苗1本を境内に植栽した。2014年5月に穂木を採取し県林業技術センターを中心に、九州育種場、指導林家栗屋さんの3者が挿し木と接ぎ木で後継苗を育ててきた。